

平成30年度第3回  
景観アドバイザー部会

会 議 録

日 時：2019年3月14日（木）午前10時30分開会  
場 所：札幌市役所本庁舎 12階 4号会議室

## ■もくじ■

1	開 会	3
2	議事	
	「（仮称）北四西五計画」について	3
3	閉 会	2 1
4	部会終了後の意見交換	2 2

平成30年度第3回景観アドバイス部会

- 1 日 時 2019年3月14日（木）午前10時30分～午前12時00分
  
- 2 場 所 札幌市役所本庁舎 12階 4号会議室
  
- 3 出席者 委 員：小澤部会長ほか4名（巻末参照）  
札幌市：まちづくり政策局都市計画部地域計画課長  
まちづくり政策局都市計画部地域計画課景観係長  
まちづくり政策局都市計画部地域計画課景観まちづくり担当係長
  
- 4 議事事項  
「（仮称）北四西五計画」について

## 1. 開 会

○事務局（地域計画課長） 定刻となりました。

本日は、大変お忙しいところご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

ただいま、委員6名中5名の方がおそろいです。札幌市景観条例施行規則第26条第4項の規定により、部会成立の定足数を満たしておりますので、ただいまから札幌市景観審議会平成30年度第3回景観アドバイス部会を開催させていただきます。

私は、事務局を担当しております札幌市まちづくり政策局都市計画部地域計画課長の二宮です。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、委員の皆様へ配付しております資料の確認をさせていただきます。

配付資料1が会議次第、配付資料2が座席表、配付資料3が景観アドバイス部会委員名簿です。

次に、連絡事項ですが、西山委員からは欠席する旨の連絡を受けております。また、都市計画部長の阿部につきましても、公務の都合上、欠席させていただいておりますので、ご了承ください。

それでは、本日の議事に入ります。

なお、議事に入って以降の場内での写真撮影は、ご遠慮いただきますようお願いいたします。

それでは、小澤部会長、よろしくお願いいたします。

## 2. 議 事

○小澤部会長 おはようございます。

部会長の小澤でございます。本日は、よろしくお願いいたします。

それでは、議事事項、（仮称）北4西5計画の議事に入りたいと思います。

まず、事務局から、議事事項のタイムスケジュールについて説明をお願いいたします。

○事務局（景観係長） 景観係長の永井と申します。よろしくお願いいたします。

議事事項のタイムスケジュールについてご説明いたします。

この後、まず、事業者、設計者様から自己紹介をいただき、約15分でご説明願います。15分たちましたところで一度チャイムを鳴らさせていただきますので、終わっていないければ、その時点でなるべく簡潔にご説明を終えるようお願いいたします。その後、各委員と事業者様、設計者様との質疑応答の時間を約60分程度とっております。質疑応答を一通り終えたら、一旦、部会長に本日の意見のまとめをしていただきます。最後に、事務局から今後の流れについてももう一度ご説明申し上げ、11時50分終了予定という流れを進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○小澤部会長 それでは、事業者側から約15分で説明をお願いいたします。

○事業者（設計者） いつもお世話になります。竹中工務店の高嶋です。

本日は、北4西5計画の景観アドバイス部会を開催いただきまして、ありがとうございます。

ます。

北海道、札幌に新たなランドマークをつくりたいという思いで、今まで事業者様と詰めてまいりましたが、その成果を発表させていただき、新たなご意見もいただきながら、よりよいプロジェクトにしていきたいと考えております。

事業者にもお越しいただきましておりますが、まず、北海道林業会館の田川専務理事からお願いします。

○事業者 田川でございます。よろしくお願ひいたします。

建物の設計、建築を竹中工務店に依頼してございまして、改築場所にふさわしい建物の設計に努力をいただいているのですけれども、皆様方からもアドバイスをいただきまして、道庁赤れんが庁舎、それから、前庭というすばらしい景観のところによりマッチした建物としていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

○事業者 福岡西鉄の大坪と申します。

今回の建物に関する責任者をやっております。今回は、福岡から参りました。北海道、札幌と手をつなぐということで、デザインも一緒に取り組んでやっております。

よろしくお願ひいたします。

○事業者 西鉄のホテル事業本部開発部の技術担当で建築を担当しております矢野と申します。

本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

○事業者（設計者） キタバ・ランドスケープの佐藤と申します。

今回は外構にかかわらせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○事業者（設計者） 竹中工務店の本井と申します。よろしくお願ひいたします。

○事業者（設計者） それでは、プレゼンテーションを進めさせていただきます。

まず、計画地の特性とポテンシャルについて紹介いたします。

場所は、北4西5ということで、皆さんもよくご存じの道庁赤れんがの北側に位置します。もともとはKKR様と林業会館様の建物でございましたが、今は解体をほぼ完了しており、6月から建物に着工するというスケジュールになっています。

これは、JR札幌駅南口から見た写真でございます。右手が解体前の建物の写真でございますが、駅を出てすぐに見えるような非常に見通しのいい場所でございます。

これが近景の写真でございます。

これがもともとあった建物でございます。

この周り一体は、道庁赤れんが庁舎にちなんで、赤れんががいろいろなところに用いられており、赤れんがの歴史を感じられるエリアと捉えております。

札幌市内や郊外にも非常にアクセスしやすい利便性の高い場所でありながら、目前には道庁の雄大な森が広がっており、遠景には山並みを感じられる場所でもあり、道庁赤れんがをまちのシンボルと捉え、赤れんががデザインコードとして活用されている歴史的なエリアという意味で、我々としては、街の縁側的な空間のように捉えてございます。

プロジェクト概要とスケジュールでございます。

建築主様は、今ご紹介させていただきました北海道林業会館様と西日本鉄道株式会社様です。

機能としましては、オフィスとホテルの複合施設になっております。

敷地面積が1,800平米ほど、延床面積が1万6,250平米となっており、建蔽率、容積率ともにぎりぎりまで使っております。

こちらが立面のパスでございます。白い線から上の5階から14階までがホテルで、3階、4階にオフィス、2階にレストランと一部オフィス、1階にエントランス関係とホテル事務所、地下に大浴場等がございます。

これが断面構成になっています。ここに大浴場がございます。

このプロジェクトは、昨年1月に事業コンペがございまして、我々と西日本鉄道様がタッグを組んで応募させていただきました。その結果、3月に林業会館様からパートナーとして西日本鉄道様をご選定いただき、そこから我々が設計及び施工に携わる形になりました。

林業会館様からこのプロジェクトに希望することとして、道庁前にふさわしい建物であること、札幌の顔にふさわしい建物であること、木を用いた林業会館らしい内装、道庁ビュウを取り込んだ快適なオフィス空間であることという四つの思いがございました。

西鉄様からは、ブランドのポジションとしまして、「街で寛ぎ、街を楽しむ拠点となる都市型ホテル」をつくりたいということで、コンセプトは、「URBAN RESORT」としました。まちの個性を楽しんだり、にぎわいと対比的に存在するゆとりの空間、巣ごもりならぬまちごもりできる場所、高級感といったことをテーマとして挙げられております。

スケジュールですが、現在は詳細設計をまとめている段階でございまして、4月、5月で確認申請を受け、6月中旬から着工し、工期が17カ月で、2020年11月中旬に竣工いたします。それから、引っ越しや準備期間を経て、2021年1月中旬ぐらいからオープンする予定になっております。

今回の外観にかかわるコンセプトと内外装デザインをまとめたものです。

こちらは、札幌らしさとは何かをまとめた資料になります。

最初、開拓の方たちが北海道に来てアイヌの方々と一緒に新たな文化をつくっていったわけですが、新しい文化を受け入れ、そこから新たな文化を発信していくことが札幌らしさの一つだと捉えております。

右にありますように、モエレ沼のような大自然と彫刻という新たな関係性があるところのほか、初音ミクやサッポロバレー等、札幌から全国や世界に発信しているとおおり、先進的なフロンティア精神にあふれるまちと捉えております。

今回、西鉄様は北海道初上陸となりますが、新たな西鉄の文化やパワーを取り込みながら、北海道の未来を明るいものにしていきたいということで、たくさんのつながりがここ

にでき、それがつながってできたような外観にしたいというのが最初のイメージでございました。

さまざまな糸と意図（想い）を紡いで、ここにしかない新しい空間を生み出していきたいということで、言うなれば、北海道にあったかいニットを贈っていただいたというような捉え方をしております。

今回のニットの構成ですけれども、地下1階、地上14階建てで、15枚のスラブがございます。これは、北海道命名150周年の歴史にもちなんだものでもありますし、西鉄様も110周年という非常に歴史のある会社でございますので、無限に広がる大地みたいなものを横糸で表現し、縦糸として、力強い木が林立する北海道や林業会館様が育んだ森林、また、日本の洗練された木文化みたいなものがかみ合わさってでき上がったところに、いろいろなことを受け入れる巣箱であったり、拡張性の高いやわらかさみたいなものが表現できないか、また、グリッドシティ「札幌」といったものも含め、そういったグリッドの中を表現していきたいと考えました。

そこででき上がったファサードがこちらです。

縦糸は木というふうに表現しましたが、実際に木を使うのは難しいので、PCに木目調を転写して塗装し、木の風合いを表現したいと思っております。

こちらになります。今は、いろいろなPCのデザインができるほどに技術が発達しております。

また、横糸は赤れんがを採用していきたいと思っております。

実際にいろいろなサンプルを各社様からご提案いただいて、それを赤れんが庁舎の横に並べて自然光の中で見ました。高層部は赤みの少し強いものでいきたいということと、低層部は、同じような赤でやるのですが、粗面のタイルを使い、より重厚感を出していきたいと考えています。

こちら側が南西から見たパースで、これが林業会館様の近景です。

ここで、わかりやすい動画をつくってまいりましたので、見ていただきたいと思います。

## [ 映 像 上 映 ]

○事業者（設計者） 今回のプロジェクトで特徴的なのは、屋上に張り出した「木」と表現しているものですが、15枚のスラブの上に150周年ということで新たなスラブがさらに載ってこられるような未来を表現したいということで角を張り出しております。

これが北側のASTY45の後ろ側に当たる位置のCGです。

ここからは内観なので、後ほど、お時間があってご興味がありましたら見ていただきたいと思えます。

これが林業会館様のエントランスホール、西鉄様の外観のエントランスホールのフレームで、内部がこのような形となっており、これが2階のレストランです。外装の木が中ま

で入り込んできて、全体の内外のコンセプトが同じようになるよう、デザインを進めております。

こちらが北側のファサードになります。この景観カラーチャートに倣って設定させていただいているのですが、若干濃い目にしたほうが重厚感が出るということで、きょうはそのご相談もごございます。

これが道庁の前の通りからのカットです。

これが夜景になっていまして、木が林立する、北海道の木みたいなものを表現する形で、今、ライトアップも考えております。

植栽計画ですが、キタバ・ランドスケープ様のお力をいろいろとおかりしながら考えております。まちの歴史や景観、都市計画の中で、札幌を代表するエリアにもう一つのきらりと光る緑のポイントを加えたいということで、道庁の森の植生や近くにあります北海道の植物園の植生にも配慮しながら、ここの部分を加えることによって、札幌のまちにゆとりと安らぎの空間を加えていきたいと思っております。

細かい説明は佐藤さんにしていただきたいと思いますが、植栽のほうもこのような形で選定を進めております。

サインについては、エモーショナル・スペース・デザインの渡辺太郎さんに入っただきながら、これから練っていかうと考えております。先ほどお見せしました外観についているサインも、もうちょっと大きくしないと視認性が悪いといったことも今は協議しているところがございますので、計画が先に進んだ段階で見ただけであればと思っております。

ここからは、補足資料ということでプランになるので、説明を一度区切らせていただきたいと思っております。

○小澤部会長 ありがとうございます。

説明の時間が若干残っておりますが、よろしいですか。

○事業者（設計者） はい。

○小澤部会長 それでは、約1時間ほど時間がございます。

委員の皆様方から、ご意見やご質問をいただきながら進めていきたいと思っております。

いかがでしょうか。

○松田委員 委員の松田です。どうぞよろしく願いいたします。

西山委員から、事前に質問というか、コメントが出ていたかと思うのですが、私も、やはり、上のところが結構気になっています。東京の青山のパークタワーなんかも、意匠、デザインは大分違うのですが、いい悪いではなくて、非常に目立つというか、存在感が非常に強くなりますし、高さも結構あります。塔屋を隠している部分もあるとは思いますが、この辺について少しご説明いただければと思っております。

○事業者（設計者） 先ほど動画の中でもご説明させていただきましたが、北海道のこれからの未来を表現するような形で、空に、天に突き抜けるというイメージが最初から強く

ございました。この突き抜け感が前に広がる道庁の森の木の一つの表現にもなっておりますし、先ほども夜景をお見せしましたが、ライトアップすることで、札幌に初めて来られた方がまちの中から見、あそこがきょう泊まる自分のホテルだとわかり、かつ、巣箱に帰れるようなことも意識しました。

また、事前にいただいたコメントの中に落雪対策についてございましたが、今は、先端から奥行き2メートルほどまでは融雪マットみたいなものを敷いて解かそうと思っています。その先については、単辺方向に勾配をつけ、雪が屋根の上に落ちるような形を考えています。さらに、屋上のパラペットの内側にも融雪マットを敷いて、雪が積もったり、北西からの風が吹いてきたりしても雪庇にならないような対策を考えております。

○松田委員 ご説明をありがとうございます。

それぞれの思いもあり、見解は違うと思うのですが、私の感想を申し上げます。

夜はライトアップされているので、非常に美しいと思う一方、赤れんが庁舎も夜9時から10時ぐらいまでライトアップをしています。しかし、こちらの方（ホテル）が存在感として非常に強くなり過ぎるのではないかと気になっています。

上のほうにコンクリートの柱が出ていくようなデザインは、一般に日本に見られないものですし、北海道にもあまりありません。人間というのは、今まで見たことのないものや普通と違うものにどうしても目が行ってしまいます。そこで誘目性が高かったり、意匠の特異性もあるので、存在感が強くなり過ぎないかという心配があるということです。

それに加え、夜もライトアップされるのであれば、こちらが主役になるといったらおかしいのですが、デザイン的にも大変すぐれていて、基本的にはすばらしいデザインだと思うのですが、あえて言うならちょっと気になるところがあるということで、西山委員からもそういうコメントがあったと思います。

その辺はいかがでしょうか。

○事業者（設計者） 先ほど、既視感がないものに対しては抵抗感があるのではないかという話もありましたが、冒頭で申し上げたように、札幌らしさとか北海道らしさといったフロンティア精神を感じていまして、今までにないものを札幌の中につくっていくことで、これが一つの新たなランドマークとなり、新しい文化が広がっていくというような捉え方もしておりますので、その辺についてはこの計画で進めさせていただきたいと思っております。

もう一つ、ライトアップの話についてです。道庁赤れんがのライトアップとともに札幌のまちに彩りを加えていきたいと思うのですが、一番の主役である道庁赤れんがを尊重するように、照度を制御していくなどを考えたいと思っております。

○事業者 道庁のライトアップは、冬場が夜9時で夏場が夜9時半となっております。また、ここの両サイドのビルがオフィスビルでございますので、夜は非常に暗いイメージになってくるため、今回はライトアップにも力を入れているところがあります。

○松田委員 何度も申しわけありません。

光の話ではないのですが、北3条広場に赤れんがをずっとサーフェスに敷いています。あそこも道庁赤れんがに合わせて同じような色にしたのですが、あちらのほうが存在感が強いというか、色がちょっと濃かったり、雨が降ると色がより濃くなったりして、道庁の存在感が逆に薄まってしまうということがあって、東京から景観の専門家が来たときにも同じような指摘をされます。

今回は、色ではなくて光です。色の問題ももちろんあると思いますけれども、今回は茶系でも比較的抑えているかと思います。でも、そういうところが少し気になったので、ご参考にしていただければと思います。

○小澤部会長 今の話題に関係することですが、実は私も気になっていました。というのは、スカイラインががたがたしてくると思うのです。札幌の上空を見上げますと、スカイラインが割とすっきりしている建物が多い中、ちょっと目立ち過ぎないかという西山委員と同じ懸念を持ちました。

また、2点目のライトアップについてです。

今もやりとりがありましたので、私からはお願いだけをしたいと思います。

道庁の空間というのは、歴史的建造物をメインに据えながら、北海道にとって非常に重要な空間になっております。確かにおっしゃるように、周辺はオフィスビルで夜になると暗くなるので、そこを明るくしたいというのはもっともだと思います。ただ一方で、余り強くなり過ぎますと、そこだけが強い目立ち方をするのです。ですから、今のパースで描かれている検討から一回引いて、広い視野で道庁の周りの空間を見渡していただいた上で照度なりを検討していただき、ぜひとも道庁とのバランスをとっていただきますようお願いしたいと思います。

二つ同時に申し上げてしまったのですが、最初のスカイラインについてはどのようにお考えでしょうか。

○事業者（設計者） 今の計画は14階建てのホテルになっているのですが、18階建ても検討したことがございました。そのときの縦横比のバランス感覚が割とよかったところがあったのですが、事業面で難しいということで今回は14階建てにしました。

建物のプロポーショナルを考えていたときに、パラペットのところですばっと切ってしまったときと縦を伸ばしたときのプロポーショナルでは伸ばしたほうがよく感じましたし、いろいろなスタディーを繰り返しながら社内でももんで現状に至っております。

スカイラインががたがたしているという捉え方もあるかとは思いますが、これも一つかと考えております。いかがでしょうか。

○小澤部会長 そこは、デザインの特徴として残していカれたたいということですね。

○事業者（設計者） そうです。

○小澤部会長 わかりました。

○窪田委員 2点ありまして、1点目は、今のストライプについてです。

多分、一番目立たせたくて、一番大事なところですけども、パースを見たとき、みんな

な、おっと思うのです。それは狙ったところだと思うのですが、私も、夜の夜景の行燈はすごくきれいだなと思って見ていました。

このストライプの出具合というか、どのくらい出すかというのは、大分スタディーした結果、この高さなのですか。この出っ張りぐあいでも印象が少し変わると思うので、皆さんが覚えた違和感と出したい部分を、もう少し検討する余地があるのであれば検討いただきたいと思います。

2点目は視点がちょっと違って、日生ビル側の公開空地についてです。

今も建物がぎりぎりまであって、すごく圧迫感のあるところだと思うのですが、そこにも緑地を少し設けているわけですね。民間の土地を出し合って通り抜けのオープンスペースをつくっていくというのは札幌でも非常に大事なことで、ここの空間がよりよくなってくると、札幌の通り抜けのオープンスペースのいい事例になってくるのかなと思います。

また、パースだと通りに面する部分がいまいちわかりづらかったのですが、植栽を見ると、アカエゾマツを植えているのですね。これは、壁のところを隠すようなイメージなのでしょうか。こちらの面に対して、意匠的にいい空間にするために考えた点があれば教えてくださいたいと思います。

○事業者（設計者） 今、西側にあります日生の公開空地が日陰になってしまっている時間が長かったり、植栽についても、佐藤さんと現地を見たのですが、ちょっと元気がないなど思えるものが見受けられます。

そこに、今回、この計画で緑の空間を加えることによって、また、よりよい公開空地にするために我々はこんなことができますが、いかがでしょうかといったことなど、これから日生さんとも協議をして、この敷地内だけにとどまらず、周りとの環境を考えながらやっていきたいと考えております。

建物との関係ですが、今は、西側の公開空地に面して林業会館のエントランスホールが広がっております。ここにエレベーターシャフトがありますが、南北の部分はガラスにしており、公開空地と中とのつながりみたいなものもつくろうとしています。

○窪田委員 裏面かと思ったら、中からそちらに開かれているのですね。

○事業者（設計者） はい。ただ、実は、ここにドライエリアのような床のないスペースがありまして、地下の露天風呂につながっています。そのため、のぞかれ防止のため、木風の目隠しルーバーみたいなものを施そうと思っておりまして、夜になるとお風呂からの湯気がふわふわと出てくるような幻想的な風景の一つになればと思ったりしています。

○事業者 今、竹中工務店の高嶋さんからお話があったのですが、そこは非常に大事な部分だと私どもも思っております。

公開空地からよく見える場所でございますし、景観的にいろいろと配慮していきたいということで、今の植え込みと今回のプロジェクトの植え込みも含め、これから日本生命さんに相談に行くところでございます。

○事業者（設計者） ほかに、この場所は林業会館の機能もあわせ持っていますので、

やはり、北海道らしさを出すということから、アカエゾマツといった針葉樹を列植し、北海道の樹木とはとか、日生ポケットパークで既に生えている樹木も結構大きく育っていますので、その背景としても美しい樹木を選定し、今回の西側の植栽を計画のように考えておりました。

○窪田委員 ありがとうございます。

検討の余地がまだ少しあるのであれば、ぜひ先進事例になるようないい空間にしていただけたらと思います。

○小澤部会長 ありがとうございます。

ほかに、委員からご意見はございませんか。

○渡部委員 委員の渡部です。よろしく願いいたします。

先ほどのプレゼンの中で、れんがの色について、重厚感を持たせるために少し濃くすることを検討しているとお聞きしました。非常にいいことだと思うのですが、赤系の色を濃くするのか、黄色系を濃くするのか、または、黒っぽくするのか、いろいろな仕方があります。ただ、四季折々の背景や時間によっても色の見え方は変わってくるので、ぜひご検討願いたいと思います。よろしく願いいたします。

○松田委員 今、れんがの色の話が出たので、それについてです。

我々の研究所でも、冬の土木施設がどういうふうに見えるかという色の研究をやっております。本州のほうですと、環境省カラーと言われるようなこげ茶色をいろいろな施設に使う事例が多いのですが、北海道の場合は、特に、冬になると存在感が非常に強くなり過ぎて、むしろよくないというか、評価が余り高くないことがあります。冬になりますと、周りがかかなり白くなりますので、相当重くなるというか、特に赤みが目立ってきます。

ですから、先ほども少し濃くしたいという話をしていたのですが、渡部委員と同じように、少し赤みが強くなると、先ほど申しました北3条のサーフェスと同じように、こちらのビルのほうが存在感が強くなり過ぎたり目立ったりしてしまいます。むしろ、赤れんがが庁舎が主役であるべきと思いますので、その辺も細かく調整しながらご検討いただければと思いますし、参考にさせていただければと思います。

○事業者（設計者） ありがとうございます。

今、赤みを濃くというふうな話がございましたが、幾つか検討しているタイルをお持ちしています。このような色系にしたいと思っていて、同じ色みでありながら、低層のほうは少し粗面にすることで深みを出したいと考えています。

もし、濃くしたいと言ってしまうと、済みません。

ただ、この色もまだうーんと思っているところがありまして、今は新たなサンプルもつくって、皆様に見ていただきながら、これから決めていきたいと思っています。

○窪田委員 見せていただいているれんがは、目地が出目地になっているのですか。

○事業者（設計者） 出目地ではなくて、引っ込ませようかと思っています。

○窪田委員 れんがは、これで見ると色にむらがあって見えますけれども、遠目に見たり

大面積になると、意外とのっぺりしてしまうことが多いと日ごろ感じています。

最初にパースを見せていただいたときも、目地もすごく広くて表情があるなと思っていたので、表情をつけたほうがいいのかなど感じていました。

○事業者（設計者） 今は、縦目地の幅を10ミリにして、横を強調したいと思っていて、横を15ミリぐらいの目地幅にして、横に感じられるような風合いにしていきたいと考えています。

○小澤部会長 今、れんがについて意見が出ていたのですが、事前にいただいた資料のパースは、差しかえ予定ということで、あくまでも参考としてを見せていただいていたかと思えます。しかし、きょう新しく差しかえていただいた最終的なものや動画等もを見せていただくと、イメージが若干変わっているのが木の色で、濃くなっているのです。

落ちついた感じになっているなど思いつつも、最初の設計趣旨では、水平のスラブと垂直の木が編み物のようになっていくということでした。水平と垂直の差が割とはっきりしていたのですが、色が近づいてきていて、そのあたりの考え方が変わってきているのかなと思ったのですが、今のお考えをお願いします。

○事業者（設計者） 木の色については、おっしゃるとおり、若干濃く、茶系に振っています。その理由としましては、西鉄さんのほうで、今回はソラリアというブランドですが、もう一つ、クルームというブランドがございまして……

では、西鉄さんからお願いします。

○事業者 当社は、ホテルが4タイプございまして、福岡にありますグランドが最高峰のホテルになります。その次がソラリアで、海外展開しているリゾートホテルでして、2年前には京都にもつくり、今回の札幌は日本では四つ目です。福岡、京都、銀座と、今回の札幌で4店目で、上からいくと、グランドの次のシティーホテルに近いリゾートホテルとなります。その下にクルームとインがあって、どちらかという、当社では最高クラスのおもてなしができるホテルをつくらうということで、お客さんに対してもそれなりのサービスと心地よさを与えるようなホテルを目指そうと思い、色を濃くしたところです。

○小澤部会長 ホテルとしてのコンセプトもあると思いますが、れんがと木の色のバランスをとりつつ、でも、向かいには道庁があって、そちらもリスペクトしていただきたいということもあります。また、今は目地の話も出たのですが、非常にいろいろなことを複合的に検討していただきながら、最終的にどういった外観になるのかが非常に重要だと思っています。

そのあたりはまだいろいろなバリエーションがあると思いつつ、全体的にぼやっとした印象になり、道庁も含めて両者が引き立たないようなことになってしまってもよくないと思っていますので、慎重な検討をお願いしたいと思います。れんがの色、木の色と目地関係についてはぜひお願いしたいと思います。

関連して、新しくいただいたものに黒いサッシが出ています。事前にいただいたほうでは、サッシに黒のラインはなかったのですが、これは黒で出てくるのですか。このパース

でも、れんがと木の色とは別に黒いサッシが出てきているのですが、いかがでしょうか。  
○事業者（設計者） 外観のフレームといいますか、縦と横の網目を強調したいことから、サッシの色は黒でいきたいと思っています。

先ほど低層の寄ったときのパースでお見せしたものは木製のサッシを使っていて、それに多少塗装を載せるような形になると思うのですが、少し黒目できゅっと締めた形にしたいと思っています。

○小澤部会長 黒のサッシの方立で、パースで茶色くなっている部分は方立で、木のチップを入れた塗装、恐らく焼きつけですね。

○事業者（設計者） そんなことを考えていたのですが、コストとのバランスを見ながら考えていきたいと思っています。

○小澤部会長 そのあたりはまだこれからですか。

○事業者（設計者） そうです。

○小澤部会長 そうしますと、先ほども、木の色、れんがの色、目地と申し上げましたけれども、その辺のトータルのバランスがすごく大事かと思imasるので、サッシの色についてもぜひよろしく願いいたします。

○岡本委員 岡本です。よろしく申し上げます。

先ほど動画を見せていただいて大体確認はできました。ただ、建物の主な壁面ライン、ファサードラインと隣棟のビル、今は解体されてしまったもとの建物はお隣よりも少し歩道側に寄ってずれて出ていたと思うのですが、この計画では建物の主なファサードの面というのは隣の建物に合っている状態という認識でよろしいですか。

○事業者（設計者） お隣のファサードラインはこちらとこちらですが、それよりも若干下げております。

○岡本委員 それに伴って、エントランス周りにある植栽の花壇は敷地いっぱいに据えているのですね。

○事業者（設計者） そうです。敷地境界ラインまで花壇が延びているような感じです。

○岡本委員 すると、敷地の角に当たる部分の花壇は90度でばちっとおさまる感じですか。

○事業者（設計者） そのような形です。

○岡本委員 歩いている人の気持ちになったら、もう少しやわらかい感じがあってもいいのかなと思いました。結局、壁はそろっているけれども、花壇はぼんと突き出て見えてくるので、少しやわらかい感じに受けとめられるとありがたいと思いました。

それから、前半でありました上に伸びているところですが、事前に配付していただいたパースよりも今回新しく出されたパースのほうが伸びていますか。

○事業者（設計者） いいえ。伸びていません。

○岡本委員 同じプロポーションですか。

○事業者（設計者） はい。

○岡本委員 今、上から順番に隠しながら見ているのですが、突き出た感を出したいとか、未来に伸びるというのもわからなくはないのですが、正直なところ、ここまで出さなくても表現できるのではないかと個人的には思いました。

さらに、夜景の話の中でもありましたが、横から見たときに、かなり大きな木質の板みたいなのがずどんと突き刺さっているようなイメージにも見えなくないのです。それで、装飾過多なような感じをどうしても受けてしまうというのが正直な感想です。

何ミリかという話は難しいので、できないですけれども、このパースの上のパラペットに当たるラインがグレーで、建物の上端部で閉じられていますが、これと同じぐらいの幅でもびしとおさまってくるような気がするのです、ここまで強く出すという考え方が僕にはわからなかったのが正直なところですよ。

それから、事前に見てきて気になっていたのは、先ほど窪田委員がお話しされていた公開空地との連携のところですが、先ほどもあったので、そこについては特にありません。

僕としては、上の部分の考え方ですね。個人的な話しかできないのがこの景観アドバイス部会の非常によくないところだと思うのですが、委員のメンバーがかわると言うことも変わってしまうことが考えられるので、厳しいのですけれども、そこだけはさらにもう少し検討していただければと思いました。

○事業者（設計者） ありがとうございます。

○松田委員 今、岡本委員から上の部分の話があったのですが、ライトアップして斜めからのCGを見せていただけますか。

これは、恐らく、道庁の少し西側から北東を見ている絵だと思います。道庁を正面にして、日生ビル側のほうから南西に見ると反対側だと思うのですが、道庁を前のほうに見て横に移動してきたときに、上のところが岡本委員の言われたように非常に大きな板のようになっているので、光の当たっている面積が非常に大きく、光も強いものと感じます。先ほど、小澤部会長から、もう少し引いたところの絵があって、その中で検討されてはという話があったのですが、やはり、あそこがすごく強いのかなという感じはしています。

○小澤部会長 先ほども委員からお話があったように、このアドバイス部会は、何か強制的にこうしてほしいとか、こうしてくださいとか、そういったものではございません。これは、我々のほうでも一緒に景観を考えていて、札幌市の都市空間を少しでもよくしていこう、一緒に育てていこうという趣旨でやっておりますので、こうしなさいというものではないということです。

そこは我々にとっても歯がゆいところではありますが、個人としては、西山委員も含め、半数以上の委員がちょっと強いのではないかと考えていますので、そのところを事実として受けとめていただいた上で今後の検討をしていただきたいと思います。

それと、最後に松田委員に述べていただいたのですが、札幌市の景観計画をつくったときに、近景、中景、遠景といった概念もありました。私は、景観の計画を考えたときにもまち中をずっと見渡しながら歩いていたのですが、札幌市には、すぐ西側にああいった非

常にきれいな山並みがあり、大きな空地の向こう側にふわっと山並みが見えるのです。それは、スカイラインが割と落ちついた中でそういった山並みが、中景と遠景が一緒になって札幌の特徴のようなものとして出ているのではないかと思います。

本州のほうの政令市、大都市では、山がそんなに遠くないところも多々あります。もちろん、山が近いところもあるのですが、都市空間の中で、遠景がない中で一個一個の建物の特徴を出していくことでにぎわいのようなものも出てきますが、札幌の場合は、その辺が若干違うのではないかと思います。遠景、山並み、特に、西側に向けてどう見えるかというのは、多分、市民の皆さんが共有されているすごく大事な要素ではないかと思っておりますので、ぜひちょっと引いていただいて、このスカイライン、トップの部分がどういうふうに見えてくるのかをお考えいただきたいと思います。

トップの部分に委員の関心が集中している、意見が多いということをご受けとめていただきたいと思います。

○事業者（設計者） これから竹中工務店と林業会館とも協議をしながら、高さの件について、建物とのバランスにおいてベストなのかということも検討しながら、また、近くから、遠くから、いろいろなシミュレーションを見ながら検討していきたいと思います。

それと、夜のライトアップについても、どの色が正解なのか、今は温白色というか、黄色い光が強いのですが、実際にはホテルの客室の光もはっきり決めていないところもありますので、お客さんが入れば、カーテンを閉めることもあるかと思っておりますので、その状態でどういうふうに見えるかなどもシミュレーションしながら、光の色も含めて検討して調整していきます。

○小澤部会長 ぜひ、よろしく願いいたします。

ほかに、委員の皆様方からございませんか。

○松田委員 私から、最後に2点ほどございます。

一つは、ホテルの正面が映っているCGを見せていただければと思うのですが、ここは植栽が入って、しかも、れんがで囲んでマウンド状になるということで、若干、こういうところがホテルとのオープンな部分とを少し遮ることになると思います。

本当に開口している部分がある程度限られていく中で、駐車場の入り口は、全体の比率で言うとそうでもないかもしれないのですが、この建物に直接アクセスできる幅の中ではかなりの比率を占めるのではないかと思います。

やはり、車が入ってきますし、歩いている方にとっても車は非常に危ないというふうに認識されると思います。今はサインが全くないのですが、恐らく、ここが駐車場ですとか、高さ制限があるのかどうかはわかりませんが、幾つかの最低限の情報が入るかと思っております。後でいろいろなものが出てくると、大抵はよくなってしまいうし、ホテルとしてのイメージもよくなると思います。そこで、竹中工務店ではせっかく高い技術力をお持ちなので、今の段階でサイン計画についても具体的に詰められて、ホテルや林業会館が目指しているコンセプトに合うような、わかりやすく、且つ必要最低限で収まるようなサイン計画

をつくっていただければと思います。

もう一つ、このサーフェスのところですが、北海道は、いろいろなことがあって、どうしてもアスファルトにする例が非常に多いです。北海道はそこまで暑くないのですが、本州は暑いので、コンクリート系のものもあります。ですから、この車道部分のサーフェスをどういう材料にするかも結構大きいかと思います。

(コスト面から)黒アスファルトにするのが通常ではあるかと思いますが、国道みたくそんなに面積があるわけではありません。半たわみ舗装とか脱色アスファルト舗装とか、いろいろなものがありますけれども、開口部の比率として駐車場の部分が非常に多いので、ここも何か配慮していただき、れんがと合うような形でご検討いただければと思います。

もう一つは、きょうお配りしていただいたASTY45からの見え方についてです。

先ほどから上の部分でいろいろと意見が出ていますが、私は、質の大変高いデザインだと思っていて、全体のコンセプトの考え方もしっかりしていますし、デザインの細かいところもいろいろと考えられているので、基本的には非常に賛同します。

ただ一方で、ASTY45側からはどうもバックヤード的な雰囲気があります。これはどうしても仕方がないのですけれども、ちょっと(その雰囲気が)強いのかなと思っています。この中でも、隣のビルで隠れて見えない部分があると思うのですが、正面に向いている細い部分がありますね。そこだけを見るとタワー駐車場のような雰囲気にもなっているのですが、そこは竹中工務店さんのデザイン力で、もう一つアクセントをつけ、バックヤード的な雰囲気を少し和らげるようなことができれば、もっと素敵な建物になるのではないかと思ったので、参考にいただければと思います。

もし、何かお考えやコメントがあれば、お願いします。

○事業者(設計者) ありがとうございます。

まず、サインの話ですけれども、今、サインデザイナー等を含めて練っています。計画をここまでまとめ上げるのに時間がかかってしまって、西鉄さんとも、このホテルの門構えやホテルらしさといったサインのあり方として、多分、ここにスタンドのサインが建つとか、そういった話についてもまだ詰めているところであり、サインの情報はまだ盛り込めておりませんが、今後、それはしっかり詰めていきたいと思っています。

この車路の全体に対する比重は、多分、7分の1ぐらいの感じにはなってきました、非常に目立つ部分、顔になる部分でもありますので、その材料についても吟味していきたいと思っています。

また、ASTY45側の部分について、今もご指摘いただきましたように、こちらが裏っぽく見えてしまうというのは、足元の部分のしつらえとか、やはり、JR札幌駅からもこのような形でよく見えてくる部分でありますので、今いただきましたご意見をもとに、デザインのあり方など、もう少し検討していきたいと思っています。

○松田委員 駐車場の舗装に関しては、特に何か、石とか高いものを入れてほしいという意味ではなく、むしろ、それで音がうるさくなったり、走りにくかったりするので、それ

ほど高価でなくても、土木の世界でもよく使われている一般的なものでも普通の黒アスファルトより随分といいものがありますので、詳しい方と打ち合わせをしながら進めていただければと思います。

○事業者（設計者） 車寄せのところに関しましては、お客様をおろす場所になってきますので、意匠的に床材を考えながらやっていきたいと思っております。

また、ASTY45のほうもまだ弱い部分がございますので、顔をしっかりとつくって、表のデザインまではいかなくても、もう少し考えていきたいと思っております。

○松田委員 我々も札幌に住んでいて、また、地方からJR札幌駅に来て、ここへ行く場合、基本的にはこちらから入ってくると思うのです。実は、正面から来なくて、私も旭川にいたときには裏から入ってきましたので、こちらは結構使われると思いますから、ご参考にしていただきたいと思っております。

○小澤部会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

では、私からもう一点確認させていただきたいと思っております。

いただいた資料を見ますと、北海道林業会館エリアは1階部分ですね。割とグレーの落ちついた床材で、白木っぽい薄い色のパースがございます。ホテルの内装も、割と近いような床材、それから、部分的に木も使われているということですが、林業会館とホテルの1階の内装を一緒に合わせていただけるようなお考えでしょうか、その辺の考え方をお聞きしたいと思っております。

○事業者（設計者） 今はまだ内装を検討中ですが、客室関係はほぼでき上がっております。1階のロビーエントランスも検討中で、できるなら木と石でつくっていきたいというのはありますけれども、林業会館さんはオフィスということなので、余り重たくするものかどうかというのが多分あると思っております。我々は、お客様に対して少し高級感を与えたいということから、少し重たい木の素材がいいのかと思っておりますので、そのところはバランスよく考えながらつくっていきたいと思っております。

もしよければ、今回、客室の内装についても動画がありますので、見ていただきたいと思っております。

○小澤部会長 では、まだ時間がありますので、長くなればぜひ見せていただきたいと思っております。

#### [ 映像上映 ]

○事業者（設計者） 2階のレストランのほうは完成に近づいています。

ここが14階のコーナーのツインになっていまして、ここだけ2室を1室にして、プレミア感をつくっております。

14階だけは階高をちょっと上げて、天井高を基準階とは少し変えています。

こちらが地下1階の大浴場です。

先ほどのドライエリアになった露天風呂です。これは、最新のCGでお見せしています。

こちらが林業会館様のエントランスホールになっていまして、これが3階部分です。3階と4階は中央に吹き抜けが広がっていまして、そこに対して各オフィスがつながっています。

○小澤部会長 ホテルの内装も林業会館の内装も竹中工務店さんがおやりになるのですか。

○事業者（設計者） そうです。基本的には全部をやっているのですが、ホテルのエリアについては丹青社さんと三井デザインテックさんにも入ってもらい、3社でデザインコンセプトを共有しながら進めております。

○小澤部会長 丹青社さんにお任せではなく、竹中工務店さんに全体としてデザインをコントロールしていただいているということですね。

それはすごく大事なことだと思います。おっしゃいましたように機能が違いますので、内装の材料も違ってしかるべきだと思うので、全体でどういう見え方をするかについてはぜひお考えいただけたらと思います。

また、材料だけではなく、恐らく、全体の照明計画、1階部分の内装の照明計画、照明の色、それから、サインのデザインについても1階部分を中心に全てを渡辺さんにデザインしていただけるのでしょうか。

○事業者（設計者） はい。

○小澤部会長 それでは、全体の統一感がある程度期待できるということですね。

○事業者（設計者） 全てがプロジェクトのメンバーという形でみんな仲よくやっております。ばらばらの提案をすることはなく、最終的には、竹中工務店さんの設計なので、まとめてもらうというやり方をしております。各会社が主張するようなデザインにはならないと思っております。

○小澤部会長 非常に大事な点かと思っておりますので、ぜひいいモデルになるような形で進めていただきたいと思います。

○事業者（設計者） ただ、サインのことで言いますと、旧林業会館のビル名をあらわす「林業会館」と書かれたしんちゅうでできたものがあるのですが、これだけは次の会館にも引き継ぎたいと思っております。そこについてはホテル側とのバランスがとれない部分が出てくるかもしれないと考えております。

○事業者 非常に重みのあるサインが今まで設置されておりましたので、それをどうふうに設置していくかはこれから協議させてもらいたいと思っております。

○小澤部会長 恐らく、そのサインは大事な歴史の一部だと思いますので、それはぜひ大切にいただきたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○松田委員 直接、景観の話ではないのですが、材料についてです。

れんがをたくさん使われるかと思えます。これは個人的な興味もあってということですが

けれども、北海道でも江別でれんががつくられていて、地元でもつくられているのですが、地元のものを使うということは何か考えられていますか。北海道としては、やはり、こういった投資をされるのであれば、（地場材料を）使っていただけるほうが本当はいいのですね。お願いする話ではないのですが、何かお考えがあれば、お聞かせいただきたいと思います。

○事業者 材料につきましては、私どもから竹中工務店さんにできるだけ道産品のものを使うようにとっております。当然、江別れんがもわかっておりますが、どういう使い方をするかは部位ごとで検討していこうと思っております。

○小澤部会長 ありがとうございます。

ほかに、委員の皆様からございませんか。

○窪田委員 客土をとるためか、比較的高い植樹ますだと思って拝見していました。茶色い色がついていますが、素材などはもう決まっているのですか。

○事業者（設計者） 植栽の花壇の立ち上がりの部分については、イメージとしてはコールテン鋼のような、れんがとマッチして少し重みを感じられるものにしたいと思っておりますが、材料選定も最終までは至ってございません。

○窪田委員 わかりました。結構立ち上がっているように見えますし、実際に歩いている人にとっては景観という視点でこれが非常に大きくなっていく要素だと思ったので、聞きました。

いい感じに仕上がると思います。

○小澤部会長 まだ、若干の時間がありますが、ほかによろしいでしょうか。

○渡部委員 サインに関しては、外も中も含め、空間との調和が重要だと思っております。今回、計画段階からプロジェクトにサインデザイナーが入ることで期待をしています。

○小澤部会長 ほかにございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○小澤部会長 若干の時間を残しておりますが、特になければ、事業者側から何かございませんか。

○事業者 私ども林業会館は、50年がたって、今、建てかえとなりました。

我々としては、先ほども委員の皆さんからありましたように、特に林業関係の団体がたくさん入っているところですから、内装には道産のものをふんだんに使っていきたいと考えております。また、公益事業をやっている団体もたくさんあるものですから、林業、それから、木材産業のPRに役立つような機能もあわせて持たせたいと考えております。

外観のほうは、どちらかというと、西鉄ホテルさんの営業面のことがありますので、とにかくたくさんの人に来ていただけるようなものにしていただきたいと思いますと考えておりますが、我々としてはとにかく内装だけはすばらしいものにしていきたいと思っております。

きょうは、どうもありがとうございます。

○事業者 今回のこのホテルにつきましては、当社の運営側だけでも北海道初進出という

ことで、非常に楽しみにしているところで、北海道らしさを出せるような運営面のサービスをしていきたいと考えております。

また、建物につきましても、当社が主張するわけでもなく、北海道を楽しんでもらう、札幌で楽しんでもらうホテルにしたいということで、デザインも、札幌市を壊すことなく、札幌市に合った、喜んでもらえるようなものをつくろうと思っておりますので、ご指導があれば、よろしくお願ひしたいと思っております。

○小澤部会長 どうもありがとうございます。

最後に、私から簡単にきょうの振り返りと要点のまとめをしたいと思ひます。

最終的には事務局から文書でお出ししますが、振り返りの意味で私のメモをもとにまとめたいと思ひます。

まず、欠席の西山委員の意見も含め、一番多く意見が出ましたのは、頂部のデザインについてです。多くの委員から、強いデザインが非常に気になるといった意見がございました。

道庁との関係、それから、近景だけではなく、中景や遠景も含め、この出方が本当にベストなものなのかどうか、再考いただけるのであれば、ぜひしていただきたいと思ひます。

もちろん、物理的な出方だけではなく、夜間の照明や材料の色なども全て関係してくると思ひますので、必ずしもサイズだけの問題ではありません。

また、このデザインの特徴であります水平のスラブ、それから、縦の垂直線は、木を基調としておりますが、そういったものを紡ぐという形でデザインしていただいております。ここで使われている木の色、それから、れんがに関しましては、目地も含めて、こういったものを全体でうまくバランスをとって、よりよい建物の外観となるよう、夜間の照明も含めて注意深くご検討いただきたいと思います。

さらに、限られた大きさの公開空地ですが、植栽の細かなデザイン、また、植樹ますの高さも含め、コーナーのデザインも歩行者に対してやわらかいイメージを出すようにするなど、まだ検討の余地があるのではないかという意見も出ました。ですから、そういった細かいところも含め、公開空地のデザインについてもご検討いただけたらと思ひます。

サインにつきましても、今回は渡辺さんというデザイナーの方を登用し、全体のサイン計画をしていただくということですが、ホテルのサイン、それから、林業会館のサインだけではなく、駐車場入り口については安全・安心といった機能もございましたので、そこについても十分にご配慮いただき、よいものにしていただきたいと思います。

こちらは、林業会館さんのオフィス、それから、ホテルの複合体ということで、全体として非常にさまざまな要素が出てきますが、竹中工務店がデザインをされ、まとめられるとあったように、ばらばらにならないよう、トータルデザインという視点で見いただければと思ひます。今後ともそのように進めていただければ、落ちつきながらも非常によいものになると思ひますので、そのあたりもぜひよろしくお願ひします。

冒頭でも申し上げましたが、この景観アドバイス部会は、許可ではございませんので、

こういったやりとりをさせていただきながら、建物の景観的な質を高めていただきたいといった趣旨でやっております。我々は、市民を代表して言っているつもりですので、ぜひその辺を酌み取っていただき、さらによりデザインにさせていただくことを改めてお願いしたいと思います。

細かくはいろいろございますが、また文書でご確認いただきたいと思います。

それでは、時間になりましたので、事務局にお返ししたいと思います。

○事務局（景観係長） 委員の皆様、事業者の皆様、どうもありがとうございました。

最後に、今後の流れについてご説明いたします。

本日いただきました意見を踏まえ、約2週間後に札幌市から事業者へ書面で助言を通知させていただきます。事業者は、通知を受け取ってから30日以内に助言について計画への反映の検討を行っていただいた上で景観アドバイス回答書を提出してください。

回答書の内容によっては、再度、景観アドバイス部会が開催される場合があるということをご承知おきいただければと思います。また、協議が終了したと認められる場合は、その旨を事業者に通知することとなります。

以上です。

### 3. 閉 会

○事務局（地域計画課長） それでは、以上をもちまして、平成30年度第3回景観アドバイスを終了いたします。

本日は、長時間にわたり、ありがとうございました。

#### 4. 部会終了後の意見交換

##### 【今回の案件に関して】

- ・ 今回の案件については、事前にこれまでの部会の資料をよく読み、非常によく考えられているように感じた。景観プレ・アドバイスの制度が浸透し、制度としての効果が確実にあらわれているのだと思う。このような案件が増えればいいと思う。
- ・ 旧北海道庁という象徴的な建築物の脇の敷地であることを踏まえると、今回の案件くらいのクオリティーはあってしかるべきと考える。景観プレ・アドバイスの効果があらわれていることについて、好意的な受け止めはあるが、場所によってこのレベルのクオリティーがどこまで続くのかということについては、もうしばらく見ていかなければならないとも思う。
- ・ 資料にCGや動画があり、回を重ねるごとに分かりやすい説明になってきている。市民に対してわかりやすいものを提供するという意味で非常にいい傾向であると思う。
- ・ 明確なコンセプトを伝えた上でデザインを説明いただけたので、非常にわかりやすかったと思う。また、これだけ準備するのは大変だろうなとも思う。どの案件でも、ここまでの準備をしていただけるのかはわからないなと感じた。
- ・ ホテルとオフィスの複合施設であり、様々な業者がかかわる中で、それを竹中工務店がまとめているのは、いい体制であると感じた。また、植栽に関しても、札幌の気候、植生等を理解した地場の企業が担当しており、そういう面でも体制ができていたと感じた。
- ・ 設計者だけではなく、事業者の方にも答えていただき、事業者の心構えみたいなものが聞けたこともよかったと思う。いろいろな問題意識があるなかで、景観プレ・アドバイスの意味もある程度理解いただいているのだなと感じた。
- ・ 今回の案件は、非常に難しいデザインであるという点で若干心配をしている。様々な要素で成り立っており、それが最終的にどんなバランスで成り立ち、ライトアップの照明も含めて上の頂部がどう見えてくるのかデザイン力が問われる計画である。下手にやると、何だかよくわからないごちゃごちゃしたものができるという危険性もあるが、そのあたりについてはコメントしづらいし、限界もある。「ちょっと複雑過ぎませんか」、「もっとシンプルにしたらどうですか」というような言い方もできないことはないが、アドバイスとしてそこまで立ち入るべきかどうか、そのあたりは難しいところだと思う。

- ・今回、事前の資料から縦ラインの色が濃くなったが、個人的には差替え前の方がいいと思った。隣のビルがグレーで目立っているが、実際にまちの中を見ると、いろいろな色があるので、その中で、事前の資料で出された対比でも、そんなに強過ぎず、むしろ、全体のイメージがぼやけず、れんがが生きるのではないかと思う。ただ、そのあたりは、設計者としてどう見せたいかが重要であり、「こちらでいきなさい」と部会から言うのもおかしい話である。「我々（事業者）が言いたいのはこういうことなのだ」と、考え方をしっかり整理して、言ってもらえるかどうか重要である。
- ・部会の開催時点で着工までの期間が短く、スケジュールを見たときに、どれだけ言ってどれだけ動いてくれるのかわからなくなってしまった。今回の事業者、設計者については、今後も景観プレ・アドバイスの対象となる行為を行うこととなる可能性があるため、スケジュールについて、「もっと事前に申出をすることはできないだろうか」、「そういったことをこちらも期待している」ということを、口頭ではなく書面で伝えた方がよいと思う。「今回の案件のスケジュールを変えるべきである」ということではなく、「今後の取り組みに際してもぜひ期待したい」ということで伝えられたらいいと思う。

#### 【景観プレ・アドバイスのレビューに関して】

- ・この制度も丸2年が経つため、来年度までの間に、一度、政策レビューのような形で振り返ってみて、札幌市として今後どうしていったらいいだろうかというものをつくってはいかがか。いろいろな課題や、いろいろな新しい発見もあったかと思うが、それぞれの委員で思いも違うと思うので、そういう場をつくることができれば、さらにより制度になると思う。また、そういったものを公表することも大事だと思う。

平成30年度第3回景観アドバイス部会

委員（5名出席）

岡本 浩一	北海学園大学工学部 教授
小澤 丈夫	北海道大学大学院工学研究院 教授
窪田 映子	株式会社KITABA 常務取締役
松田 泰明	国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所 地域景観ユニット総括主任研究員
渡部 純子	公益社団法人日本サインデザイン協会 理事

（50音順、肩書き等は部会開催時点のもの）